

## 第383回テレビ神奈川放送番組審議会

1 日 時 2018年3月13日(火)午後2時～3時30分

2 場 所 MBC 2階 テレビ神奈川 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者6名、欠席者2名 布施勉副委員長、五大路子委員

出席委員; 山田一廣委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、伊藤有壱委員、吉川知恵子委員、  
二宮泉委員  
tvk;中村行宏社長、押川渉取締役、嶋田充郎報道局長、三枝弘プロデューサー、  
近藤和之編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①3月のタイムテーブル

②3月・4月の特番一覧表

(2)視聴合評

『tvk NEWSハーバー』

2018年2月16日(金)午後6時00分～6時30分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2018年2月17日(土)～3月9日(金)

・第382回(2月)放送番組審議会の議事報告

(「猫ひたプラス」2018年3月2日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日  
特になし

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2018年4月13日(金)「猫ひたプラス」(12:00～12:15)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

近藤編成部長

定刻になりました。第383回のテレビ神奈川放送番組審議会を始めさせていただきます。山田委員長お願いいたします。

山田委員長

ようやく春めいてまいりました。今年1月には阪神淡路大震災から23年が経過したということで、3月は2日前に東日本大震災から7年が経過したということで。あの未曾有の大惨事を風化させてはいけない、忘れてはいけない。しかもこの30年の間に7割の確率で発生すると想定されています首都直下地震。こういったものに対応しなければならない。そんな思いがありまして、これまで寄稿させていただきました神奈川新聞の「識者評論」というコーナーに、7年を迎えた東日本大震災のことを書かせていただきまして、そのコピーを今日は厚かましくも皆さんの机の上に置かせていただきました。ぜひ目を通していただければ有り難いと思っております。それでは383回目の番組審議会を始めさせていただきます。では中村社長の方からお願いします。

中村社長

本日も年度末のお忙しいところをありがとうございます。今委員長が触れました東日本大震災。私どもも先週の後半、そして今週は昨日・今日ですか、ニュースの中で、東北にも何件か取材に出ていて、それを特集で組んで、まさにおっしゃったように風化をさせないということに取り組んでおります。一方、春めいたというところで言うと、オープン戦も始まって、私どもも今シーズンは41試合を、今の段階でベイスターズ中継を予定しています。去年の今頃はまだ30数試合を予定するということだったので、今年はだいぶ増やしました。その中にはジャイアンツ戦が9試合、阪神戦も8試合ということで、例年よりもさらに力を入れて野球を編成していこうということで頑張っていきたいと思っております。また先週、東海大相模と慶応高校が表敬訪問してくれまして、この春そして夏の100回大会に向けて高校野球も盛り上げていくような番組構成を考えております。本当に球春が待ち遠しいという今日の陽気です。本日

もよろしく願いいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは、本日の議題に沿って進めていきたいと思  
います。まず放送番組について。これはお手元の3月のタイムテーブル、3  
月・4月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いいたし  
ます。

近藤編成部長

それではタイムテーブルのご説明をさせていただきます。こちらのフロンター  
レの写真です。表と裏は、昨年J1リーグの覇者でございます川崎フロンター  
レを表紙にしました。来年度Jリーグ中継は2本程度予定をしています。また  
F・マリノス、そしてベルマーレもJ1に復帰しておりますので、神奈川ダービー  
が楽しみかなと思っております。開けていただいて、先ほど社長からもありま  
したが、プロ野球中継は3月30日から開幕戦で、私どもは41試合、ホームゲ  
ームを現在予定しています。3月29日の前日に、「ベ이스ターズ開幕直前ス  
ペシャル」ということで、21時から21時30分に放送させていただきます。そ  
れと3月22日ですが、こちらも先ほど社長から話がありました東海大相模高  
校と慶応義塾高校の「壮行特番」です。3月22日の21時から編成いたします。  
その下はサッカーで「KICK OFF F・Marinos」「ファイト！川崎フロンターレ」  
「Spirit ベルマーレ TV」で、県内のJ1応援番組を金曜日に21時から22時55  
分までの間に3本立て（「Spirit ベルマーレ TV」は毎月第4金曜日放送）で  
お送りします。「映画の時間」ですが、このようになっております。先月もご紹  
介しましたが、「君の名は 第二部」。非常に視聴者の皆さまからご要望をい  
ただいたので、3月21日水曜日・祝日12時から14時20分に放送いたします。  
その下は3月13, 14日、「神奈川県家庭婦人バレーボール大会」、恒例に  
なっています。3月16日金曜日には、前回ご紹介させていただきました「こと  
ば～あなたの愛する日本語は何ですか？～」、ピースの又吉さん等々にご

出演いただきます。それと3月25日日曜日、こちらも毎年編成しております「あすの地球と子どもたち」ということで、今回はネプチューンの堀内健さんと、以前うちの番組にレギュラーで出ていました宮島咲良さん、この二人にMCをお願いして、子どもたちでもわかる環境問題の取り組みをご紹介させていただこうと思っております。タイムテーブルをはさみまして、一番最後のページでございます。これまでずっと「あぶない刑事」を月～水の夜10時に編成しておりましたが、2月26日からは「傷だらけの天使」を編成します。お昼の時代劇は「必殺シリーズ」です。韓国ドラマは「秋のカノン」です。それと製作委員会番組ですが、「俺旅シーズン4」のDVDのご紹介となっております。タイムテーブルは以上です。続きまして A4 の「3月4月の特別番組一覧」を紹介させていただきます。前回ご紹介させていただいたところは省いて、なかったものと、3月18日「春はどこへ～伊勢湾 消えた春告魚～」ということで、三重テレビさん制作のドキュメンタリー番組です。伊勢湾で水揚げされているコウナゴ。伊勢湾に関しては春告魚はコウナゴらしいのですが、3月に漁が解禁になるということですが、漁獲量が大幅減ったということで、2年続けてのコウナゴ漁が禁漁になっています。非常に伊勢湾の温度上昇が著しくて、コウナゴが減少しているということで、この消えたコウナゴの謎に迫るということで、三重テレビさんのドキュメンタリー番組を放映します。その後「たばこはそんなに悪いのですか?」。これは年末に吉川先生からご指摘をいただいた番組でしたが、その後いろいろ番組の方を改稿要請しまして、3月まで改稿要請しまして、3月21日の7時半からオンエアします。その後3月25日の「ペルー×JICA」。こちらはJICAのペルーでの活動紹介番組です。3月25日は先ほどご紹介させていただいた「あすの地球と子どもたち」です。その後3月30日「春休みアニメ名作劇場 ジャングル大帝劇場版」、こちらは1997年の

「ジャングル大帝」になっています。3月31日「猫のひたいほどワイド 祝2周年感謝祭スペシャル」は、3月3日藤沢市民会館でイベントを行いまして、その模様を交えたダイジェスト番組です。3月31日土曜日「僕たちの小トリップ～広島篇～」、こちらは第4弾です。前は新潟上越の番組でしたが、今回は村井君と玉城君という2.5次元の舞台俳優さんを使って、広島の紹介番組となっています。その後「人狼特番～人狼ゲーム公開記念スペシャル～」、これは「人狼ゲーム」というドラマの映画が4月から公開されますけれども、こちらの公開記念スペシャルです。その後4月21日に「ボートレース マスターズチャンピオン」こちらはプロモート中ですが、福岡から中継を組もうとしております。その後28日、29日「ノジマチャンピオンカップ 箱根シニアプロゴルフトーナメント」、こちらは4月19、20日に行われるノジマさんのトーナメントで、こちらをBS-TBSさんが制作するものを購入して4月28日、29日にオンエアいたします。3月・4月の特別番組一覧は以上になります。

山田委員長

ありがとうございました。事務局から3月から4月にかけての番組の紹介がありましたが、これについて何かご意見ご質問がございましたら。3月25日の「ペルー×JICA」、仮のタイトルですが、は5分しか時間がないんですが、どのような番組ですか。

近藤編成部長

5分番組で、元々こちらはJICAさんが地方のメディア派遣プログラムという、地方のメディアを連れて行って、いろいろ活動するというもので、このJICA地方メディア派遣プログラムに、tvkも昨年参加しました。野球をペルーの子どもたちに教えようという内容で。教室の模様をペルーで収録して。営業持ち込みにはなっておりますが、制作して。短い番組ですがJICAの活動をご紹介します。

山田委員長

わかりました。他にございませんか。

林委員 16日の特番「ことば」ですが、これは前にもありましたよね。

近藤編成部長 そうですね。「ことば」は前回もご紹介させていただいて。又吉さんとか。O  
Bが作っていて。

中村社長 毎年はやっていないです。

林委員 ああ、そうでしたっけ。前にも目にした記憶があったんですが。

近藤編成部長 前回、先月の審議会のときに。

林委員 ああ。

伊藤委員 よろしいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

伊藤委員 「あすの地球と子どもたち」の内容について少し教えていただけますか。

近藤編成部長 はい。内容は、県内企業さんであったり、あとはうちの4階を使ってどういうふう  
に大人が働いているかみたいなどころから、うちの社長室とかを使って。環  
境問題よりも働くというところからの切り口にしていて。そういうところから環境  
問題というものを、tvkもはじめとして取り組んでいますよという。いろいろな企  
業さんのご紹介も入るのですが、本当に環境問題というよりはもっとやさしい  
感じですね。それをご紹介させていただく番組です。

伊藤委員 はい。

山田委員長 他にございませんか。

白石委員 ちょっと。

山田委員長 はい、どうぞ。

白石委員 この写真なんですけど、裏もそうですが、もっと明るい。

近藤編成部長 これですね。

白石委員 活力があるような写真とか撮れなかったんですか、これね。残念ですね。

近藤編成部長 写真が、確かに。この日は雨だったんですよ。

白石委員 気の毒ですね。

近藤編成部長 J1覇者を来年も背負ってくださいという意味で。

山田委員長 他にないようでしたら、2番目の視聴合評に移りたいと思います。

近藤編成部長 本日は毎週金曜日夕方6時から6時30分にお送りしています「tvk NEWSハーバー」という番組です。2月16日のもので、DVD を先生の皆さまにお配りしています。今日はプロデューサーの三枝が同席していますのでよろしくお願いたします。

#### 視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございます。今の資料の中には、前半4つのニュース、後半2つのニュースが入っていましたが、真ん中のいわゆるトピックスが中心だったんですが。日々のニュースを追いかけてながら、こういう毎日映画コンクールとか、ダンサーの藤田さんのことをいろいろと。その辺の苦労も踏まえて、三枝プロデューサーの方から、この番組の特色からお話しいただければと思います。

三枝プロデューサー はい。「NEWSハーバー」は、立ち上がりは月曜日から金曜日までの帯でやっていますが、いろいろな放送の変遷がありまして、現在は金曜日夕方6時から30分間になります。大きな構成は、今委員長がおっしゃった通りで、前半はストレートニュースで報道記者によるニュースの報道。真ん中に「特集」という形で、NEWSハーバー独自の視点でいろんなトピックスを2つ組み合わせています。今回くしくも、ちょうど文化芸術に関する話題が重なったんですが、ちょうど放送直前にコンクールの授賞式があったり、また藤田さんの受賞の表彰式があったということで、今回特別に2つ続けて文化系になったのですが。その他にも神奈川県の高校生を応援する企画でありますとか、中高の教育番組、あとは日々の地域の情報番組を特集として流させていただいております。後半はまたニュースで、その日の出来事をご紹介します。

真ん中の特集は、いわゆる報道の記者とは違って、制作スタッフが独自の視点でいろいろな情報を持って企画をしておりますので、記者のいわゆる報道の特集とは違った視点で、視聴者の方に伝わるような情報、トピックスをお届けするような番組構成となっております。

山田委員長 ありがとうございます。それでは委員の皆さんからご意見を頂戴したいと思います。いろいろ質問が出るかと思いますが、最後にまとめて三枝プロデューサーからお話ししていただければと思います。それではトップバッター、二宮さんからお願いします。

二宮委員 すみません、私は視点がちょっと定まっていないんですけど、このコメントは、今のあの画像に関してのコメントになるんですか。

嶋田報道局長 そうではなくて、番組全体とか、あとは毎週レギュラーでやっていますので、その番組全体に関する感想でも構いません。

二宮委員 今、この2つの文化庁の芸術祭、また毎日映画コンクール、今回はこれがメインだったということですが、これについて「何かコメントしろ」というのは私自身もあまりなくて。「なんか、芸術が2つかぶっているな」と「たまたまこの時期はこうだったのかな」という感想を持っただけです。ただ、毎日映画コンクールは菅田さん、長澤さん、役所さんとか非常に有名な役者さんがずらずらずらと続いて、おそらく映画の醍醐味を見させていただいたんですが、これはあくまで審査という立場で見てですよ、長澤さんのだけどうして長かったのかなというのは感じました。15秒ぐらい長かったんじゃないかなということを感じたぐらいで。あと、これは金曜日の6時の放送ですから、おそらく自分は普段は生では見られないです。どういう人たちが見ているのかな。主婦が見ているのかな。そういうふうに思いながら。この日はたまたま殺人事件が2つもあって、暗いニュースが続いたんだなと思いつつ。ただ金曜日ですから、次は土日



だと。そうすると、こういうローカルのテレビというのは、背景に観光地とか、そういうものをどうして映さないのかな、なんて思いながら見ていました。たとえば天気の時でもいいんですが、定点の大きな橋情報カメラからの映像ですけども、そこだけに限らず、どこか「そろそろ春ですよ」みたいなことをやってほしいな。そうすると我々はお出かけの気にもなるよなとか、そんなことを思いながらちょっと見ておりました。そんなコメントでよろしいでしょうか。

山田委員長

ありがとうございました。では続いて白石さんお願いします。

白石委員

事件は大きな事件であったので、改めて重大な事件だったなと思いました。後半の映画コンクールと、パントマイム。意味がわからないですが、ただ文化庁が選定しているわけですから。我々としてはとっつきにくい、選ばれた背景として「なるほど」ということにはならなかったです。これからの芸術というのは、やはり盛んにされるんでしょうね。女優、男優の皆さんについては、受賞されていましたが、これは少しわかりましたね。こういう方々が選ばれたんだなということで、「おめでとう」という感じです。そんな感じで見ました。そういうことで、以上です。

山田委員長

ありがとうございました。では続きまして吉川さん。

吉川委員

まず最初に、このニュースの位置付けで、県内ニュース、いわゆるニュース部分ですね、これについては県内の出来事に絞ってやられるという位置づけなんだらうなとは思いましたが。たとえば冒頭のコメントは羽生さんのピョンチャンに始まって、それからいきなり県内のニュースに絞り込んだ話になっていったわけですが。そこらへん、全国ニュースの扱いはどのように考えられているのかということ、後でちょっとお聞きしてみたいなと。あえてもう県内、あるいは首都圏ぐらいなのか、ある一定の地域を除いたものは報道しないというような限定なのか。そこらへんのくくりを知りたいと思いました。細かいことから申

し上げていくと、まず私は、この長澤キャスターなののでしょうか、とてもコメントが安定していていいなと思ったんですが、あの髪型がね。服装も含めてやはり情報番組というやはりニュースの信頼性という点からすると、もうちょっとパリッとしてほしいなという印象を持ちました。それからテレビ神奈川さんは、わりと女性2人というコンビが好きなんだな。「Up To Date」もそうでしたけど、なにかこうバランスをとる意味では、別に男女にそんなにこだわるわけではないですけど、あえて女性2人というふうにすると、役割分担がかえって難しくなるんじゃないかなと感じました。それとニュースの扱いの部分は後で質問に答えていただくとして、取り上げられたニュースの中でも、たとえば川崎市の老人ホームの殺人事件の裁判の話で言えば、2016年でしたかね、取り調べの可視化が義務付けられて、裁判で実際に取り調べの様子が映像で裁判員たちが見られるという画期的な新しい制度運用なんですね。私は法律家なのでそういう背景がわかるわけですが、もうちょっとそこらへんの、裁判の中でそういう取り調べの様子のビデオが公開されたということの重み、位置付けをやはりもうちょっと詳しく踏み込んで解説してほしかったし。青葉区の郵便局の元部長の事案で言えば、「加重収賄」という言葉が何度も出てきたんですが、市民の方が加重収賄と言ったときに、どんな罪なのかということがいっぺんで想像できるんだろうかと考えたときに、その構成要件を、普通の収賄罪とどう違うのかというところをわかりやすく、単に賄賂を受け取ったり要求したりしただけじゃなくて、その上でさらに不正な行為をしたり、あるいは必要なことをしなかったという点で重く処罰される収賄罪なんだということ、わかるような形での。単にニュースを紹介するというよりは、そこら辺の解説がほしかったなと思いました。それに比べて特集は、今週はたまたまなのかもしれませんが、文化芸術が2つ重なったというバランスの悪さもあり、やや長かったかなと。

なんでこの2つが特集なのかなというのがずっと疑問にあったんですが、何回か私は、短い番組だったので見ているうちに、まず1つ目の文化庁の芸術祭は、関内ホールの自主事業の演目が受賞の対象だったんだというネタに気づきまして、ああ、それで特集かと。次は毎日映画コンクールも、なぜと違って、全国レベルなのにとしたら、表彰式をこれから放映するという番宣も兼ねているのだなというところがわかりまして。ある程度そういった番宣や自主事業との絡みの放映は必要だとは思いますが、やはり特集のバランスを考えるとき、その2つが2つともというのは、ちょっとバランスとして。たまたま時期が重なったとしても、どちらか諦めていいぐらいのものだったんじゃないかなと思いました。京急百貨店の催事も、後でコマーシャルも出て来て、番組の中で取り上げることなのかコマーシャルなのかという位置づけもちょっと曖昧になったかなと。別に催事として流すぐらいは、そんなには抵抗なかったんですが。中華街の催事などはまさにイベントとして、季節柄の時事ネタとしてまさに取り上げるべくして取り上げるものなのかなと。天気情報についていえば、横浜・小田原・横須賀・相模原の天気を出していたと思うんですが、せっかく県内に絞って、甲府とか最後は出ていましたが、県内の中でも詳しくやるということであれば、でも箱根はどうなのとか、山だと天気が違うと思うので。それからわからないですが、横須賀と言ってもイコール三浦とか海の方と同じなのかしらということで、もう少し細かくスポットを出して、県内の人がより、「あ、これがうちの天気だな」とわかるようにセグメント分けはもっと細かくしてもいいのかなと思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。いろいろと意見が出たと思いますが、後程反論していただいて。続きまして林さん、お願いします。

林委員

特集の方からまずお話したいのですが、藤田さん、私は不勉強で存じ上げ

なかったのですが。どういう方なのかということを知りたかったですね。簡単で結構だったので。もちろんいろいろなお話に興味は持ったんですが、その間に流れていた当日の舞台風景よりも、彼はどんな考えでこの舞台稽古をしているのかという、稽古の方を私は見たかったです。舞台稽古をして、その結果が当日の舞台になったということで紹介していただけたら、もっとインパクトがあったのかなと。これも自分の不勉強なんですけど、文化庁の賞の新人賞というのは、かなり重きをなす賞なんでしょうけれども、過去にどうの方が獲っているのかということをお話していただければ、もっと私みたいな者でも、よく理解できたのではないかと思います。それから映画コンクールですが、これは先ほども出ましたが、後日時間枠を拡大して放送するもので、私は2つ取り上げるまでもなくて、この映画コンクールについては極めて短くても良かったのではないかと。作品賞や監督賞に、普通映画好きな方は関心が行くので、大賞は「花筐」の彼に贈ったということは、非常にそれなりに意味があるんでしょうが、作品賞、監督賞のが、リストはあるんでしょうから、主演男優・主演女優、助演男優・助演女優、加えてどういった方が。是枝さんでしたっけ、ちょっと私は憶えていないんですが、それを知りたかったです。短くしても良かったと思います。それから今ここで流れなかった点でいいますと、この日は非常に大きなニュースがあって、川崎の老人ホームで投げ落として殺害した彼の公判と、茅ヶ崎のいじめ事件がありましたよね。これはこの日に発覚したというニュースでしたが、先ほどのをカットして、もうちょっとこちらの方に時間を費やしても良かったのではないかと。場合によっては茅ヶ崎のいじめ事件は今も続いているので、担当記者さんがスタジオに出るのは難しいかもしれませんが、現地から記者なりの考えを、このいじめ事件について、非常に重大事態ということをお話したままだったという問題があるので、それ

について少し話をさせていただけたら親切だったのかなと。それからもう1点、後の方で相模原市の予算案の発表がありましたね。これは政令市の予算案なので、もしこれも記者がスタジオに来るのが難しければ、相模原市役所を背景にしたフリップを使ってでもいいので、この予算案のポイントを3つぐらい絞って話をさせていただければ、市長がいろいろ話をされるよりもよくわかったのではないかと思います。やはり政令市なので、横浜・川崎・相模原市の予算案については、もう少し記者が登場するか、それでなければフリップなどを使って丁寧に説明した方がよりわかりやすかったのではないかと。いろいろ注文だけ申し上げましたが、6時と9時半のニュースはtvkの大きなニュース番組の柱なので、大変私どもも期待していますし、見てもおりますので、その辺を引き続き充実していただければということでした。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして伊藤さん。

伊藤委員

今回見せていただいて、改めてニュース番組というものの要素と構成の難しさを感じるというか、考えるきっかけをいただきました。勉強になりました。おおよそ大小入れて10個のコーナーみたいな要素が取り上げられている中で、確かに事故とか裁判、またはトピックス的なもの、いろいろあったんですが。全体的にいわゆる報道的な部分が非常に早口で、スピードと密度がぎっしりな感じがしました。トピックスとしての文化芸術の、特に映画を紹介するところが少し長く感じたというのは、皆さんもほぼ同感だったようでホッとしました。文化が2つというのは、私は文化畑なのでうれしいんですが、確かにちょっと油物を重ねて食べたような胸いっぱい感があって、確かに効果的に見せるには、他の話題とうまく合わせられるといいなと感じました。やはりなぜ神奈川県で流すかというところを気にしながらではあったんですが、藤田さんの関内ホールオンリーというのは、彼は福井県出身でありますし、あと「コ

ンドルズ」の一員であるということだけでも、だいぶ彼が何者であるかわかると  
いう人がすごく増えたと思うんですよ。コンドルズであれば、NHKであろうが  
テレビ神奈川さんだろうが、横浜市のイベントだとかですごく深いご縁がある  
アーティストですので。それも、かなり中核の一人ですので。そういう一言が  
添えてあることが大事で。特集部分の文字と映像の構成は非常に凝っていて、  
そこ自身は好きでした。芸術祭としての受賞で神奈川県にご縁があると  
言えば、東京芸大の映画の教授でもある黒沢清も文部大臣賞をもらってい  
ます。あと山村浩二という教授も文部大臣賞をもらっています。横浜にキャン  
パスがある芸大で、それぐらいもらっている人もいますが、なぜ藤田さん  
かという。「あ、いるんですけどね」という気持ちにはなりましたね。あと二宮さ  
んがおっしゃっていた、確かに金曜日と考えると、最後の方の話題は週末情  
報として柔らかくほぐしながら楽しく終わってくれるといいなというところでは、  
中華街のものにプラスあると良かったかなと思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。いただいたDVDを2回続けて見させていただきまし  
た。30分という限られた時間の中でニュースと、いわゆるトピックスのようなも  
のをいれてニュースにまとめているなという感じがしました。前半のニュース  
ですよ。これは皆さんも先ほどから話していますが、平塚の殺人事件、川  
崎の老人ホームの事件。そのときちょっと気になったのは、私の錯覚かもしれ  
ませんが、なぜそれを言わなかったのかというのを、「警察に言われた」という  
ふうに言っていますが、あれは検察ではないんですか。裁判上の中で検察  
からそれを言われたんじゃないかなと思って。テロップが警察になっていま  
したので、検察の間違いかかなと思って、ちょっと確認していただけるかなと思  
って発言しました。その後の青葉区のいわゆる不正ですね。これは先ほど吉川  
さんがお話ししていましたが、小難しい法律用語があつて、それを解説する

なり、担当した記者がスタジオじゃなくてもいいですが、どこか取材先で簡単に解説するとか、そういうこともほしかったなと思います。それと茅ヶ崎のいじめ問題は、本当に第三者にはわかりづらい面がありますので、茅ヶ崎の小学生のいじめ事件なんかも、取材した記者がその背景を言っていただくことも必要だったのではなかったかなと思いました。それから、その間にありましたダンサーの藤田さん。藤田さんは非常に話し方も良くて好感を持ってましたが、これは皆さん先ほどからお話していますように、ちょっとあそこで時間を取るのには長かったのかなという気がします。藤田さんの紹介。人間というのは人間に一番興味がありますので、ちょっとした簡単なプロフィールみたいなものを、テロップで流していただければと思いました。それから毎日映画コンクールは、一つ一つの賞に対して映像が出ていましたが、あれはそんなに必要ないんじゃないかなという気がいたします。むしろ、大林監督の「映画は過去の歴史を変えることはできないけれど、歴史の未来を変えることができる」と、これは非常にドキッとするような言葉でして。これは映画だけでなく、マスコミを中心としたメディア全体に言えることじゃないかと思いますね。今いろいろ問題になっています。憲法9条の問題だとか、森友問題も、結局そういう取り扱いによって未来を作ることにつながるんじゃないかというような気がいたしまして。大林監督の言葉はより印象に残りましたが、他の紹介コーナーはちょっと長すぎたなというような感じがいたします。それからアナウンサーの久本さんは、非常に目力があってよかったと思います。非常に語り口もてきぱきしていて。ニュースを伝えることに、こちらにも内容が伝わってきます。もう一人の長澤さんも非常に明るくていいんですけど、これは男の私が言うべきことじゃないんですが、先ほど吉川さんがお話ししてくれたように、ちょっとラフな感じがしました。これは女性の服装やスタイルの問題ですので、なかなか微妙な点もある

りますけど。そんな感じです。後半のニュース、中華街のお祭りの模様は非常に良かったんですが、やはり相模原の予算に関してはもうちょっと具体的な言葉でもって紹介していただけたら良かったのではないかというふうに感じます。いずれにしても、30分要領よくまとめていたなという印象です。以上です。他にどなたか、言い忘れたこと、言い足りないことがありましたら。

林委員 よろしいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

林委員 これは吉川さんもおっしゃっていましたが、途中で出た大量取引店、あれ、私は見ていたらCMが入ったので「おやおや」と思ったんですが、それはいろいろとご事情があたりだとして。あまりにちょっとどうかという気がしました。

吉川委員 よろしいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

吉川委員 特集でむしろニュースの解説的な。私もさっきコメントしそこなっちゃいましたが、いじめも非常に奥が深い問題で、結局第三者委員会が入ってようやく認定されたということで公表に至ったという事案ですから。特集として扱わなくても、ニュースをもっとより深く掘り下げて解説して下さっても良かったかなという印象です。

山田委員長 それからちょっと違和感を感じたのは、買い取り店がありましたよね。今、家に押しかけていって、「他に何かないか」と言って安く買いたたくというようなあれがありますが、それとは違いますけど、どうしてもその感じのイメージがありますので、この辺の扱いもどういうあれでこうやったのか、後でお伺いしたいと思います。

二宮委員 すみません、ちょっと一点だけよろしいですか。

山田委員長 はい。



二宮委員 すみません、番組内のコマーシャルというのは、あれは全然こちらは関係していませんか。コマーシャルもこちら関係していますか。今回のリフォーム。

中村社長 くらし館ですか。

二宮委員 はい。電車から見えるって。どこから見えるんだろうって思ったんですよ。どこなんだろうって。私は結構リフォームって、台所直すとかお風呂直すとか、どこにお店があるんだろうってよく思っているんですけど、ああいう大きな設備があるんなら行ってみたいなと思うんだけど、どこなんだろうって。僕は実際乗っているからわかりますけど。それから国民年金基金の方が下に「さがまちコンソーシアムの協力により大学生が制作しました」という字がずっと置いてあるんですけど、これは何のためにあるんだろうなって。何もわからなかったです。普段は興味なくて流れるところだったんですが、これだったので一生懸命見ている。これはなんだろうなと思いました。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、いろいろ意見が出ましたが、まとめてお答えいただければと思います。まず最初にあれでしたね、吉川さんの方から出ましたが。

嶋田報道局長 最初に私の方から少しお話をさせていただいて、あと三枝の方から。報道局長の嶋田でございます。今日はありがとうございます。この「NEWSハーバー」という番組は、振り返ってみると意外と番組の歴史も古くて、この新社屋に移ったのが確か2004年で、それから2年後の2006年ぐらいから、スタイルだとか放送日時や曜日などを変えながら、現在まで放送している番組です。その途中にはおそらく林委員にも、何度か出演していただいたこともあるような、そういう番組です。作る方も、我々内部がどういう形でということをもっとお話ししますと、全体的なフレームは、この30分の番組自体は、現在のコンテンツ局という番組制作全般を扱っている部署、三枝がプロデューサーということで、

そこでやっております。その中にニュースということで、ニュースのブロックを前半と後半に設けて、その部分は報道部で、記者やデスクがジャッジして、ここにある程度のめどをつけて入れ込むという形で。どちらかというと良くも悪くも直線でガッチャンコして30分の番組を。そしてニュースの方は、できるだけ新しい情報をギリギリまでやっつけていこうと。ただニュースも今回は皆さんご指摘があったように、非常に大きななかなか内容のあるニュースが重なっていたという日だったんですが、これは日によって違うところもありまして、その辺の意思疎通を番組側と報道部のニュース部門とやりながら作っているのがこの番組です。良いところでいいますと、準備している番組とニュースのところがうまく合えばいいんですが、なかなか当日、先ほど言ったように、大きなニュースがあるんだったらもっと詳しくというところを、急に大きく変えたりということがやりづらいというマイナス部分もあろうかと思います。それは三枝も日々放送に当たって苦勞しているところだと思います。それは我々内部のお話しということで、やらせていただいております。そしていくつか、吉川委員のご指摘に関してを中心にお話しさせていただきます。長澤は番組全体を取り仕切っておりますので、三枝と打ち合わせをしながら全体をやる。久本は直前までニュースのスタンバイをして、本当に番組のギリギリに原稿ができて、ギリギリなときは本番2〜3分前にスタジオに駆け込むようなスタイルでやっております。大体我々業界でいうと、夕方のニュース6時台というのは、ちょうどいろんな情報がギリギリで来て、それをニュースの完成形にするというところは、非常にバタバタとニュースをやるところで。本来は皆さまからご指摘をいただいたように、特に裁判のニュースも筆頭ですが、もっと詳しく。ニュースの原稿自体は記者もデスクもやるんですけど、「これって何なのか」とか、「このニュースで今回一番新しい」とか、「大きなポイントはどこなのか」とか、先ほど吉

川委員から数点指摘がありました。そういうところをもう少し詳しくできればなというところもあるんですが。ちょっと今の段階では、夕方のニュースは速報系でやって、夜の9時半からの「ニュース930α」、そして4月から、後ほどお話ししますがモデルチェンジしますけど、夜のニュースで、この高齢者ホームの連続転落死事件の裁判についても、記者が生出演して、当日はずっと傍聴していますので、そのあたりをスタジオ解説したり、それこそ先ほどご指摘いただいたように、フリップを用いてとか。なかなかこれですべて、長く複雑な裁判がどこまで伝えられるのかというのはちょっと自信がないところですが、取材した記者がそれぞれ工夫しながら。テレビなのである程度の取舍選択をしながら伝えているというところが現状であります。あと、全国ニュースとローカルニュースのすみわけというところもご指摘がありました。今回、長澤の方も生で夕方30分やっていますので、できるだけ最新のトピックス的なものをあのときに言って。本来ならオリンピックの映像なんかが少し流れると雰囲気も違ったのですが、我々としては夜のニュースは間に合ったんですが、ちょっと当日ショートプログラムの映像がまだ間に合わずに、そのあたりが。長澤は、それこそニュースがどう入っているのかわからずにコメントを準備していたというところで、番組のバランスでいうと、少し違和感が、お話しいただいたように残ったのかなというのが、ちょっと反省です。全国ニュースとローカルということだと、我々はやはりローカルニュース優先。そして全国ニュースでも、それがどう神奈川に影響するのか。そして神奈川県民にとってみるとどんな影響があるんだ、どう変わっていくんだというところにはできるだけ視線を落とす形で。当然その際には全国ニュースを伝えた上で、たとえば神奈川県自治体ではこれをうけてどう反応するのかというような形で、できるだけ伝えていきたいというふうには心掛けています。あと女性2人のコンビと

いうこともあって、我々もそういう議論がありまして。「NEWSハーバー」も、今はこういう形でやっていますが、夜のニュースは4月以降は男性と女性のコンビでやっていこうとか、ちょっと試行錯誤しながら。一概に女性2人だからいいとか悪いとかもないでしょうし、そこは個人がどうこうではないんだけど、いろんなパターンだとか引き出しを、出演者でお互いにできるだけ多く持つのは非常に大事だなと思っておりますので。4月以降いろんな番組でそういうチャレンジをしていきたいと考えております。当日のニュース部門でいいますと、林委員がおっしゃったように、相模原市の予算、政令市の予算。皆さんが払っている税金がどう使われるのかということを示す場でもありますので、そこをただシンプルに伝えるよりはもっと詳しく。夜のニュースではもう少し詳しく伝えているんですが、もっとやはり詳しく伝えるべきだったなと思ってます。あとは三枝から、お話しさせていただきます。

三枝プロデューサー 特集の方は、本当に。芸術文化がくしくも2つ続いてしまったんですが。今回の特集は1・2とあるんですが。通常はディレクターが代わりまして、1はAディレクター、特集2はBディレクターというような割り振りでやっている部分も多いんですが、今回はちょうど同じディレクターが取り仕切って。そういう芸術文化が好きで、そういう思い込みがあるような取材、インタビューの編集もあったので、若干、本当は僕が言うてはいけないんですが、やはり皆さんがおっしゃるように、もう少し藤田先生ならプロフィールとか、人となりがわかったり、その賞の権威づけじゃないですけど、いったいどういう賞なのか。そういうところを視聴者にわかりやすく解説し、映画の部分ももう少しコンパクトにやると、同じ芸術文化の話題が続いても、構成・切り口を変えるともう少し伝えやすくてきたかなということ、反省点として受け止めさせていただきました。週末金曜日の夕方の情報ニュース番組ですので、週末お出かけできるような情報もな

るべく集めてご紹介するようにしています。今回はちょっと不要な大買い取り展だったんですが、他の催事で、赤レンガ倉庫前のイベントですとか、他のところでのお出かけ情報、観光情報も特集なり、お知らせという形で提供して、通常の月～木のニュースとはまた違う、金曜日だから週末に皆様に神奈川や横浜を散策していただけるような情報も、取り入れるように、さらに今回4月に向かってそういう情報を吟味して特集に組んでいければと思っております。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。嶋田報道局長と三枝プロデューサーから懇切丁寧に説明いただきましたが、何か他にご意見等は。

伊藤委員

今ご説明いただいたことに関連してですが、改めて見ると通常の月～木の「tvkニュース」と金曜の「ハーバー」の少し枠が膨らんで、さらに月～金で「ニュース930α」がもっと大きい枠でありますので、同じものを全部やるということには当然ならないと思うんですが、何かその関係というかバランス・役割みたいなものがあれば、教えていただきたいのですが。

嶋田報道局長

通常夕方の、今我々が月～木でニュースをやっております、そこは我々サイドの役割分担でいうと、報道のニュース部門だけでやっております。ただニュース番組だけではなく、やはり週末にもっと報道部門で扱う以外の情報、我々の内部でいいますと、他の部署とのかかわりの中での情報。また他に三枝がいましたように週末の情報。そこをもう少し報道視点から、もう少し情報系でお伝えすることができればという試みの下、この30分をやっているということなんです。ちょっと言い方は難しいんですが、月～木の夕方、そして夜は今は25分間の「ニュース930α」になっているんですが、本当に報道目線、記者がベースで作る番組。そして金曜日の夕方ニュースについては、そこを報道と番組制作系の合わせ技というか、そういうコラボでやっているという

状況です。

山田委員長

他によろしいですか。

中村社長

二宮委員のあれをお答えしますと、リフォーム館は相鉄線と東海道線と横須賀線から見えます。

二宮委員

そうですね。バラの方ですよ。

中村社長

CMは実際大学生が作っているんですよというのを多分、年金基金さんが強調したい意図のもとに作られているんだらうと思います。そこは我々、介入していないのであれですが、多分親近感を出したいなという意図が演出的におありなのかなという。

山田委員長

他にないようでしたら、3番目のその他報告事項に移りたいと思います。

近藤編成部長

はい。視聴者対応についてです。2月17日から3月9日まで、電子メールは5,526通、電話に関しては535件いただいています。「あっぱれ！KANAGAWA 大行進」「かながわ旬菜ナビ」「ハマナビ」にご意見をいただいております。お問合せメールの件数は「猫のひたいほどワイド」はベルトで、プレゼントもありますので今回も順位は変わらずです。視聴者対応については以上です。

山田委員長

事務局から視聴者対応について説明がありましたが、これについて何かご意見ご質問等ございましたら。

林委員

「その他」のところに問題の「ニュース女子」がきていますが、これは局でいろいろ総合判断されるんでしょうけど、まだ引き続き放送はされるんですか。

中村社長

一応3月いっぱい終了しようということに。

近藤編成部長

一番最後でご紹介しようかと。すみません。

山田委員長

これについては最後に説明をしていただきたいと思います。視聴者対応については、よろしいですか。他にないようでしたら、前回の番組審議会の報

告です。

近藤編成部長

それでは、前回382回の報告になります。

#### 議 事 報 告

山田委員長

本日の議題はすべて終了いたしました。先ほどのその他の件につきまして事務局からお願いします。

近藤編成部長

はい。資料の前に、先々週ですか、民間放送連盟の方で「放送番組審議会担当者全社会議」というものが20年ぶりに行われました。その中でやはり放送番組審議会というものがどれだけ重要であるのか、形骸化されているのではないかということ、民間放送連盟、また総務省の地上放送課さんから説明がありました。先ほど林委員の方からの件と、岩手放送さんの方でも議事録を何回か書き換えたりした経緯がございまして、この件に関して総務省の地上放送課さんからご指摘があり、もっと番組審議会の機能を活用するように。今日の二宮委員からご意見があったCMとかに関しても、いろいろなご意見をいただく。たとえば編成全体に関して、経営に関してというのも当番組審議会からいろいろご意見をいただく場であるようにしなさいということで通達をいただきました。それと資料を付けさせていただきました。昨年12月に「ニュース女子」の関係ですが、放送倫理、人権委員会の方からは重大なる倫理違反ということが出まして。3月8日にはBPOの人権委員会の方も、人権侵害という勧告を「ニュース女子」という番組が受けております。持ち込み番組といえども、放送責任は地上波放送にあるということが厳しく書かれておりました。考査体制に関して地上波放送をやる前には、自分のところで制作していないとはいえども、しっかりと番組を検証して放送しなさいということで。人権委員会は以前私どもも、報道のニュースで倫理違反を指摘されまして、改めてこれを見て。「ニュース女子」は先ほど社長からもありましたけれども、

3月いっぱい放送を終了させていただく方向になっております。

山田委員長 前々回ぐらいからこの問題はクローズアップされていて、いろいろ意見が出ていますけれども、これについて引き続きご意見等ございますか。

吉川委員 よろしいですか。

山田委員長 はい、どうぞ。

吉川委員 これを他山の石とするという意味で、御社の考査体制の見直しみたいなものは、具体的に検討されたんでしょうか。考査というか、持ち込み番組の事前チェックというんですかね。

中村社長 それは今現在も。この番組云々ということではなくて、しておりますので。

吉川委員 ただ、より漏れがないようにするにはどうしたらいいとか、そういうことは検討なさったんですか。

中村社長 これまで通りの考査体制だと考えております。

押川取締役 ただ、こういうことがありましたので、持ち込み番組についても考査の部分でより厳しい対応ということで、取り組みをするようにということですので、考査担当者には今まで以上に、より注意深く考査をしていくという取り組みは続けています。

近藤編成部長 担務の方も1名、考査体制等々で活用しようと考えていまして、やはりこういうことがあるので、しっかり対応していこうかなと考えております。

山田委員長 他にどなたかよろしいですか。これで本日の議題はこれですべて終了いたしました。事務局から次の紹介をしていただきます。

近藤編成部長 来年度4月の放送番組審議会は、4月17日火曜日午後2時から、場所はこちらになっています。次回の視聴合評番組は未定でございます。追ってご連絡をさせていただきます。申し訳ございません。

山田委員長 ありがとうございます。他にお伝えしたいことはございませんか。ないようで



したら、本日はこれにて閉会とさせていただきます。